

大谷池の周辺環境整備

地域の手で整備計画を作成



小松町南川にある大谷池は県下第3位の大きさを誇るため池で、その水は小松町南川や小松町新屋敷の灌漑用水として利用されています。

大谷池の周辺環境整備を行うに当たり、地域の方が愛着を持って利用・維持してもらえらる場にしようと「地域みんなで計画づくりワークショップ」を実施し、地元住民や小・中学生の発案で整備計画が作成されました。

大谷池は、当時の小松町耕地整理組合組合長・森田恭平氏と副組合長・今井巻太郎氏の尽力によって大正9（1920）年に築造され、それ以来、小松町第一土地改良区が維持・管理を行っています。

大谷池は、昭和21年の南海大地震で堤防に亀裂が入り、昭和22～25年にかけて災害復旧工事が行われたほか、平成12～19年度には老朽化等による改修工事が行われました。

大谷池の周辺環境整備は、改修工事によって生み出された空間を活用して、地域の憩いの場、環境学習の場、地域

農業の歴史文化を未来の子どもに受け継ぐ場を創出し、地域の方が愛着を持って利用・維持してもらえらることを目的に計画づくりを進めました。

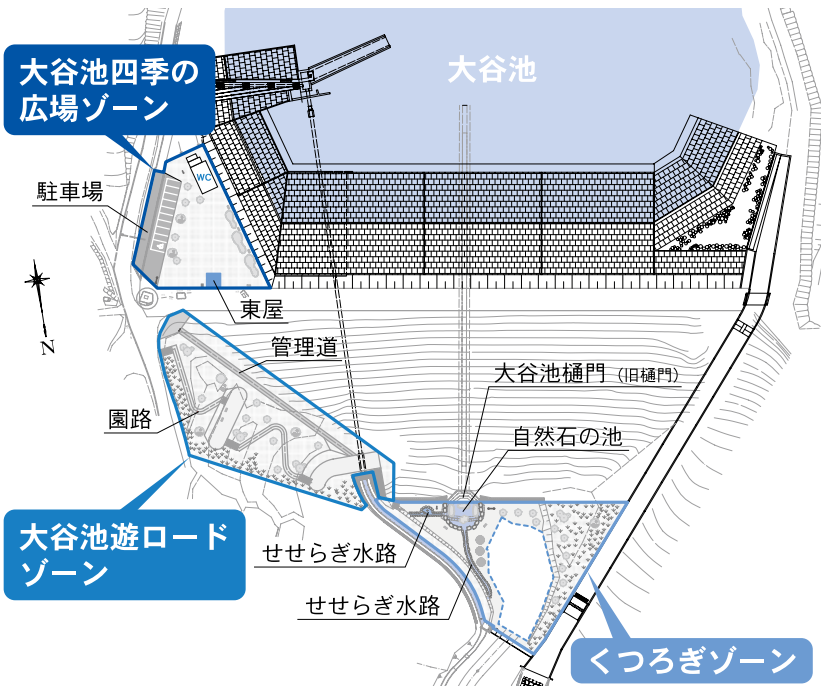
計画づくりには、南川自治会、小松町第一土地改良区、小松小学校・小松中学校の児童・生徒が参加し、現地視察や研究集会を交えて提案や意見を出し合いました。

その結果、整備箇所を「四季の広場ゾーン」「遊ロードゾーン」「くつろぎゾーン」の3区に分け、それぞれ特徴のある広場として利用する計画となりました。

地域の皆さんで作成した計画を基に、平成21年度は施工の実施設計を行い、平成22・23年度の2カ年で整備が完了する予定となっています。

地域の方はもちろん、訪れる人々の交流の場として、新たなコミュニティーが築かれることを願っています。

大谷池周辺環境整備の計画図



▲大谷池周辺の視察（自然観察会）



▲参加者による整備計画の発表

■問合せ 市庁舎本館農林土木課
TEL0897-52-1524